

4.28 沖縄人民解放闘争を闘おう

新たな「沖縄戦」強制をゆるすな

辺野古新基地建設阻止! 沖縄-琉球弧へのミサイル配備弾劾!

4.28-5.15 沖縄連帯行動

東京都杉並区下高井戸 1-34-9

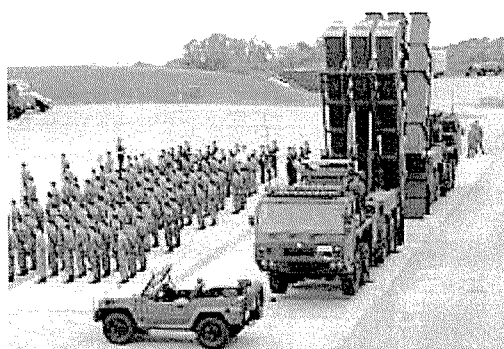
03-3329-0165

沖縄を反革命戦争の出撃拠点にするな!

対中国反革命戦争、朝鮮反革命戦争をめぐる日帝の攻撃が激化している。そのための最前線出撃基地として、沖縄-琉球弧の島々の要塞化がすすめられている。

3月21日、沖縄島初となる地对艦ミサイル部隊が陸上自衛隊・勝連分屯地に新設された。昨年石垣分屯地における部隊新設につづき、すでに配備されている宮古島、奄美大島と合わせ、勝連には沖縄-琉球弧のミサイル部隊の指揮統制をになう「連隊本部」も置かれる。

そして26年には陸自15旅団をより規模の大きい師団に格上げしようとしている。それにともなう訓練場の新設がうるま市で狙われていた。うるま市石川地区は65年前に宮森小学校にジェット機が墜落し、死者17名・重軽傷者200名以上となる大惨事が起こった場所である。訓練場予定地は住宅地に近く、多くの沖縄労働者人民の「計画反対」の闘いがまきおこった。その闘いを受け、4月防衛省は断



3・30 地对艦ミサイル配備式典(勝連分屯地)

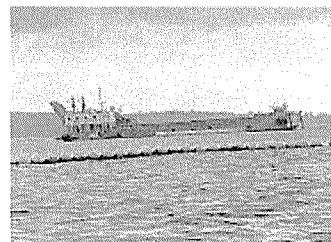
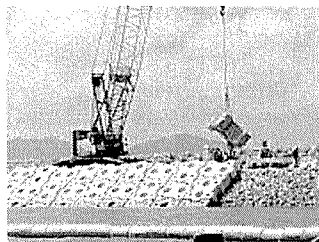
念するとした。しかし、防衛省はまた沖縄の別の場所で訓練場建設を検討するとしている。

政府・防衛省は、「台湾有事」を煽り立て戦争突撃をおこなう中で、沖縄-琉球弧全域を出撃基地にしようとしており、戦場となることを想定している。「ミサイル危機」をあおり、Jアラート、ミサイル避難訓練を組織することで朝鮮・中国への排外主義を煽動し、沖縄労働者人民を反革命戦争に動員し、新たな「沖縄戦」を強制しようとしている。革命的反戦闘争の爆発で、日帝の戦争突撃、軍事要塞化を粉碎しよう。

辺野古新基地建設を阻止しよう!

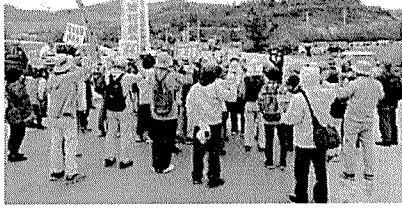
1月、沖縄防衛局は、大浦湾側の埋め立てを強行開始した。大浦湾にマヨネーズ状の軟弱地盤があっても構わずに埋め立てを強行するための設計変更承認の「代執行」が、国(国土交通相)によって強行されたことを受けたものだ。徹底して弾劾する。

政府は、戦争のための基地を作らせないという、沖



左:弾薬装填場(予定)の護岸工事 右:採石投下作業ヤード(大浦湾)

縄労働者人民の多くの反対の声や行動を踏みにじ



3・28 土砂搬出阻止
集中行動（塩川）

り、繰り返し「辺野古が唯一」と突き進んでいる。

辺野古では、陸上・基地ゲート前や海上・カヌーや船で、体を張って継続的に闘いぬかれている。また、安和(名護市)や塩川(本部町)で、埋め立てのための土砂搬出を阻止する闘いがおこなわれている。これらの闘いと結びつき、辺野古新基地建設阻止にたちあがろう。

全港湾ストライキ連帯! 港湾の軍事使用を許すな!

3月11日から13日、米駆逐艦が石垣港に寄港することに対して、全港湾沖縄地本がストライキを闘った。このストライキに対して、石垣市議会はスト解除要請決議をあげスト破壊をおこなった。しかし、

これを粉碎しストライキが貫徹された。

港湾労働者の反戦ストライキ・実力決起と連帯し、空港・港湾の軍事利用阻止、軍需物資輸送阻止を闘おう。

反革命戦争突撃を鮮明にした、日米首脳会談

4月10日におこなわれた日米首脳会談において、日帝岸田と米帝バイデンはさらなる反革命戦争突撃のための共同声明を出した。

首脳会談が強行された。

岸田は、22年の安保関連3文書改定の閣議決定、防衛費の大幅増大や、反撃能力と称した先制的敵基地攻撃能力の保有、トマホークの購入など、飛躍的な戦争突撃体制の構築をもってこの会談に臨んだ。

日米安保粉碎、自衛隊・米軍解体、基地解体の革命的反戦闘争にたちあがろう。ウクライナ戦争粉碎、パレスチナ人民虐殺弾劾、対中国・朝鮮反革命戦争を粉碎しよう。改憲・核武装、大軍拡に突撃する岸田自公連合政府を打倒し、日帝国家権力を解体しよう。

そして日米関係を「グローバルなパートナーシップ」と位置づけ、全世界的規模で反革命戦争突撃の一翼を担うことを明らかにした。そして、日米軍それぞれの指揮統制の枠組み向上・連携強化で合意した。まさしく、画段階的な戦争突撃会談として日米



4・10 日米首脳会談
粉碎闘争（東京）

4.28 沖縄人民解放闘争とは

4月28日は、沖縄労働者人民が「屈辱の日」として闘いにたちあがってきた日です。
1952年4月28日、サンフランシスコ講和条約が発効しました。日米安保Ⅱ反革命階級同盟を基軸に、日帝ブルジョアジーが帝国主義国家として自立したのと同時に、ヒロヒトの「天皇メッセージ」によって沖縄を米軍政下に叩き込んだ日です。
同時にこの日は、日帝の植民地支配下にあった朝鮮人・中国人にとつては、一方的に日本国籍を剥奪された日であり、日帝が「戦後補償」をおこなわない居直りの出発点となっている日でもあります。